

霧氷林

うかわまゆみ

篠竹と鯖缶もらふ秋の昼

野の花の庭となりたる白露かな

木の洞を鳥の飛び立つ初嵐

たつぷりと生きてひとりや竹の春

安曇野の林檎の空を熱気球

餓鬼を呼び邪気を払ひし夜の胡桃

静やかに木の実降る降る廃寺跡

ドラム缶赤く焦がして木の葉焼く

冬めくや素焼きの鉢のひとかけら

めつむればふるへる瞼むつの花

凍空や好きな皿から壊れたる

ばりばりと固まるレンズ霧氷林